



毎年、弘法大師のご入定日（命日）にあたる4月21日には、山陽小野田市の各地で「お大師さま」が祀られ、参拝された方へのお接待が行われます。

お接待でお菓子などが貰えるとあって子ども達で大賑わいの札所などで、町の皆さんに話を伺いました。

ニッポンの
ハロウィン!?

弘法大師をお参りするものとしては、大師の足跡をたどり四国八十八ヶ所霊場を巡る「四国遍路」や旧暦のご入定日に山口市で行われる秋穂八十八ヶ所霊場「お大師まいり」が有名ですが、山陽小野田市でも、弘法大師を祀るお堂や家庭が一年間の感謝の意を込めてお参りに来られた方にお菓子などを振る舞う風習「お大師さま」が、毎年4月21日に市内各地で行われます。

各地のお堂（札所）で日頃祀っているお大師さまを綺麗に飾りお供えをしたり、地域の集会所や最寄りの空き地にお大師さまを持ち寄ったり、自宅を開放してお大師さまをお披露目したりと、様々なお大師さまで賑わい、地域のご婦人たちが、お参りされた方を笑顔でお接待する光景が此処彼処で見られます。

お堂には札所の番号が付されているところもあり、今回は高泊の第三番をはじめ幾つかの札所を伺いました。第三十二番・第三十三番の札所として大師像を奉祀している江の内八王子神社の世話役の江本さん・橘野さんからは、「707年に創建された別府八幡宮や806年に開創された岩崎寺など、由緒ある神社仏閣が数多くある山陽小野田の地を、弘法大師が西国行脚の際に訪れたかもしれない。」との話をお聞きし、歴史の浪漫を感じました。



▲各札所のほか、仮設テントや自宅など様々な場所にお大師さまが祀られる。

また、お大師さまには民間信仰の側面もあり、「幼い頃に大病を患ったが、両親がお大師さまにすがる思いでお祈りすると完治できたことから、家でもお大師さまをお祈りするようになった。」など、ご利益についてのお話も聞かれました。

「ここのお大師さまは昔から眼に効くと言われている。」と教えていただいたのは、旦に八十年来お住いの藤井盛さん。「この辺りは江戸時代の末頃から皿山として栄えて、人が集まってきた。その際、代々大事にしてきたお大師さまも一緒に移り住んできたのではないか。」とのこと。

持ち寄った十体近くのお大師さまが祀られていた地区もあり、日々の暮らしを見守って下さる身近な存在として、お大師さまが地域に根差していることを強く感じました。

四国遍路のお接待には、お遍路さんは常に弘法大師と共にいる「同行二人」という考えから、お接待することが弘法大師への功德になるという意味や、自分の代わりにお参りを託すという意味があるとされています。また、四国全土に渡る八十八ヶ所霊場の巡礼が心身共に過酷な旅であることをよく知っている四国の方々はお遍路さんを応援する意味を込めてお接待をされているそうです。

子どもにお菓子を配る風習には、欧米のハロウィンがあります。仮装した子ども達が「トリック・オア・トリート（お菓子をくれなきゃ、いたずらするぞ）」と言いながら家々を廻ると、大人たちは「ハッピー・ハロウィン」と言ってお菓子を渡します。これは、仮装した子どもに紛れて悪霊が家に入らないように追い払う魔除けの意味があります。同じような風習でも、背景の文化や意味が違って面白いですね。

国際交流が進んでいく中で、日本のおもてなしの心が世界からも注目を集めていますが、お大師さまのお接待にも、地域の人々の優しさが溢れています。春のお大師さまは、山陽小野田にいつまでも残ってほしいと思う心温まる風景です。

(文・写真：山田幸司)



▲ 祠の像や掛け軸、各家庭で所蔵のものなど、お大師さまも様々。



【おすすめの一冊】

『始まりの木』夏川草介（小学館）

毒舌な民俗学者と弟子の女性大学院生の名コンビが、日本各地で民俗学を探り、「神様」を探す旅を描いた短編集。お遍路さんを描いた短編「同行二人」も収録されています。